

3 保健福祉学科

3. 1 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健福祉学科は、深い教養と豊かな人間性を兼ね備え、福祉的視点と方法に基づいて、子ども、障害者、高齢者等すべての人々の自立と自己実現を支援し、健康と幸福の増進に寄与することができる人材を育成することを目指しています。社会福祉学専攻では、特に社会における多様な福祉課題に対処する問題解決能力と共感力をもった人材を、また子ども学専攻では、教育的視点と方法を併せ持った、子どもの育ちと学びに関わる人材を育成することを目指しています。

したがって、本学科では次の能力を身に付け、かつ卒業の要件を満たした者に学位を授与します。

<社会福祉学専攻>

【教養】豊かな教養を身に付けている

【倫理観】人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている

【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている

【専門性1】社会福祉学と健康科学の知識・理論を身に付けている

【専門性2】ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術を身に付けるとともに、多職種と連携できる力を身に付けている

【専門性3】ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けるとともに、多職種と連携できるマネジメント力、実践力を身に付けている

【課題発見・解決力】【生涯学習力】自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている

<子ども学専攻>

【教養】豊かな教養を身に付けている

【倫理観】人間、健康、社会に関する幅広い知識と論理的な思考力および高い倫理観を身に付けている

【異文化理解・コミュニケーション力・企画提案力】多様な文化や価値観を受け容れ、グローバルに活躍できる企画提案力、情報発信力を身に付けている

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】地域におけるコミュニケーション力と専門性を生かした企画提案力を身に付けている

【専門性1】教育学と発達科学の知識・理論を身に付けている

【専門性2】子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力を身に付けている

【専門性3】子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力を身に付けている

【課題発見・解決力】【生涯学習力】自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる知識や技能を将来にわたって自ら積み上げていく力を身に付けている

3. 2 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保健福祉学科は、社会福祉学専攻と子ども学専攻の2専攻を設置しています。学位授与の方針に掲げる人材を育成するため、2専攻は次のような教育課程を編成しています。

〈社会福祉専攻〉

【導入教育】1年次に修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。

【教養】1年次から2年次までの共通教育科目的履修を通して、人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け、専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します。基礎的知識の体系的理解を得るために「人文社会学入門」「自然科学入門」、専門分野共通の基礎として「健康科学入門」などを設けています。

【倫理観1】共通教育において、高い倫理観を身に付けるため「生命倫理」などの科目を設けています。

【倫理観2】専門科目における「生活支援及び自立支援カテゴリー」科目をはじめとして、多くの科目において、倫理観を養い、人を支援する心を醸成し、豊かな感性を育みます。

【異文化理解・コミュニケーション力1】「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます。

【異文化理解・コミュニケーション力2】「保健福祉学スタディーツアー」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します。

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」「地域福祉論」「地域組織論」等を通じて地域課題を知り、それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します。

【専門性1】1年次から2年次までに両専攻の「専門共通」科目を履修し、対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った「福祉」専門職の基礎となる知識を修得します。さらに「専門分野」科目として、「生活支援領域」と「自立支援領域」の各カテゴリー科目の履修を開始し、社会福祉や介護福祉の基礎について履修します。

【専門性2】2年次から3年次には「専門分野」科目を主に履修し、対象者の生活支援に関わる福祉的視点と方法を併せ持った「福祉」の専門職として必要な専門領域の知識と技術を修得します。この履修を通じて、社会福祉学と健康科学の知識・理論の修得、ソーシャルワークの方法および実践的な相談援助技術、ケアワークの方法および実践的な生活支援技術を身に付けます。さらに他の専門職と協働して、リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています。

【専門性3】3年次から4年次には、専門分野各論の充実した履修とともに、「専門ゼミナール」で各自が学習テーマを設定し、既存研究のレビューや演習等を通して課題に取り組むほか、「研究ゼミナール（卒業研究）」で既存研究を参考しながら、適切な方法（調査、実験、観察、事例研究、文献研究）を用いて研究することにより、専門性を高めていきます。

【課題発見・解決力】【生涯学習力】4年間を通じて、1年次は「入門ゼミナール」、2年次は「基礎ゼミナール」、3年次は「専門ゼミナール」、4年次は「研究ゼミナール（卒業研究）」を履修します。この履修を通じて、自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる力を育成します。特に、研究ゼミナールでは、社会福祉学専攻4年間の学業の集大成として、教員のアドバイスを受けつつ、主に「福祉」に関するテーマを選び、卒業研究とします。

【資格取得】共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し、卒業時には社会福祉士及び介護福祉士国家試験受験資格取得が可能となります。

〈子ども学専攻〉

【導入教育】1年次に修学基礎に関する共通教育科目により、大学での学びについての理解を深めます。

【教養】1年次から2年次までの共通教育科目的履修を通して、人間や社会を理解するための素地となる豊かな教養を身に付け、専門基礎へ導入を図るための基盤を育成します。基礎的知識の体系的理解を得るために「人文社会学入門」「自然科学入門」、専門分野共通の基礎として「健康科学入門」など

を設けています。

【倫理観1】共通教育において、高い倫理観を身に付けるため「生命倫理」などの科目を設けています。

【倫理観2】専門科目における「専門共通」科目において福祉の心について学ぶとともに、多くの保育及び幼児教育系科目において、倫理観を養い、人を支援する心を醸成し、豊かな感性を育みます。

【異文化理解・コミュニケーション力1】「English Language Program」をはじめとする語学科目でコミュニケーション能力とグローバルな視点を身に付けます。

【異文化理解・コミュニケーション力2】「保健福祉学スタディーツアー」において異文化理解によるコミュニケーション力を修得します。

【地域でのコミュニケーション力・企画提案力】「岡山創生学」等の社会連携科目や「地域保健福祉演習」「地域福祉論」等を通じて地域課題を知り、それを解決に導くための理論と企画提案力を修得します。

【専門性1】1年次から2年次までに両専攻の「専門共通」科目を履修し、子どもの育ちと学びに関する保育・教育的視点と方法を併せ持った「保育・教育」専門職の基礎となる知識を修得します。さらに「専門分野」科目の学びをスタートし、保育や幼児教育の基礎について履修します。

【専門性2】2年次から3年次には「専門分野」科目を主に履修します。子どもの育ちと学びに関する保育・教育的視点と方法を併せ持った「保育・教育」の専門職として必要な専門領域の知識と技術を修得します。この履修を通じて、教育学と発達科学の知識・理論の修得、子どもに対して実践的な保育および教育の指導や支援ができる力、子どもの育ちと学びを家庭や地域との関係の中で捉える力を育成します。さらに他の専門職と協働して、リーダーシップを発揮できる力を育成する「チームガバナビリティ演習」を設けています。

【専門性3】3年次から4年次には、専門科目の充実した履修とともに、「専門ゼミナール」で各自が学習テーマを設定し、既存研究のレビューや演習等を通して課題に取り組むほか「研究ゼミナール(卒業研究)」で既存研究を参考にしながら、適切な方法(調査、実験、観察、事例研究、文献研究)を用いて研究することにより、専門性を高めていきます。

【課題発見・解決力】【生涯学習力】4年間を通じて、1年次は「入門ゼミナール」、2年次は「基礎ゼミナール」、3年次は「専門ゼミナール」、4年次は「研究ゼミナール(卒業研究)」を履修します。この履修を通じて、自ら学び続ける姿勢と習慣を持ち、福祉や保育・教育の専門性を修得し、問題解決できる力を育成します。特に、研究ゼミナールでは、子ども学専攻4年間の学業の集大成として、教員のアドバイスを受けつつ、主に「保育・教育」に関するテーマを選び、卒業研究とします。

【教育力】(幼稚園教諭及び保育士養成課程)教職教育科目を履修することで保育・幼児教育の意義や教育実践に必要な知識と技術を身に付け、教育能力を育成します。

【資格取得】共通教育科目及び学部教育科目の中から履修し、卒業時には幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格取得が可能となります。教職教育科目を履修することで保育・教育の意義や保育・教育実践に必要な知識と技術を身に付け、保育・幼児教育能力を育成します。

3. 3 教育課程の編成

保健福祉学科では以下に示す教育課程を編成している。

専門共通科目	両専攻の学生が履修する科目である。保健福祉学の基礎理論及び知識を修得するとともに、研究方法を身につけ卒業論文としてまとめる。
専門科目(社会福祉学専攻)	主に社会福祉学専攻の学生が履修する科目である。人々の健全で自立した生活を支援するために必要な専門的理論、知識、方法・技術を修得する。
専門科目(子ども学専攻)	主に子ども学専攻の学生が履修する科目である。子どもたちの豊かな育ちと学びを支援するために必要な専門的理論、知識、方法・技術を修得する。

3. 4 卒業要件と履修方法

(1) 卒業要件

保健福祉学科(平成29年度入学生用)

社会福祉学専攻	必修科目	選択科目	計
共通教育科目	16 単位	12 単位	28 単位
学部教育科目	17 単位	79 単位	96 単位
計	33 単位	91 単位	124 単位

子ども学専攻	必修科目	選択科目	計
共通教育科目	25 単位	3 単位	28 単位
学部教育科目	81 単位	15 単位	96 単位
計	106 単位	18 単位	124 単位

(2) 他専攻または他学部・他学科開講科目の扱い

①他専攻開講科目

保健福祉学科の他専攻が開講する学部教育科目(専門科目)を修得した場合、修得単位10単位までを所属専攻の学部教育科目の選択科目として認定する。当該授業科目のカテゴリーは保健福祉学科長が決定する。修得単位は卒業要件単位数に含める。

なお、他専攻の科目のうち履修できるものは講義科目に限られ、原則として演習・実習科目は履修できない。

②他学部・他学科開講科目

保健福祉学部の他学科並びに他学部が開講する学部教育科目を修得した場合、修得単位の4単位までを本学科の学部教育科目の選択科目として認定する。当該授業科目のカテゴリーは保健福祉学部長が決定する。修得単位は卒業要件単位数に含める。

なお、①と②で認定される単位数は、あわせて10単位を上限とする。

(3) 他専攻開講科目の単位認定手続き

他専攻開講科目を修得した場合、卒業要件単位としての認定はそれぞれの学年末に行われる。

3. 5 社会福祉学専攻

(1) 教育課程

社会福祉学専攻の教育課程は、教育方針に従いながら専門の知識と技術を教授すると共に、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い豊かな人間性を涵養することをねらいとして、専門共通科目と3領域（生活支援領域、自立支援領域、国際福祉領域）の専門科目から構成されている。

社会福祉学専攻 教育課程(カリキュラム)		概要
専門共通科目		保健福祉学の基礎理論や関連諸科学の専門的知識を修得する。 1年次から4年次までの小グループによる一貫教育を通して、研究方法を修得すると共に、卒業論文の執筆にむけた指導を行う。
専 門 科 目	生活支援領域科目	主に、社会福祉士に必要な社会福祉学の専門的知識及びソーシャルワークの方法・技術を修得する。
	自立支援領域科目	主に、介護福祉士に必要な介護福祉学の専門的知識及びケアワークの方法・技術を修得する。
	国際福祉領域科目	諸外国の保健・福祉領域の現状や動向を学習し、国際的な視野を修得する。

(2) 履修上の留意点

社会福祉学専攻における学部教育科目は、資格取得のための科目と、スペシャリストとして必要な専門基礎に関する科目及びより専門性を高めるための科目からなる。将来の進路としては、社会福祉行政、児童施設、高齢者施設、障害者施設、病院、福祉関連企業などがある。履修計画では、このことを考えて、必修科目や資格取得科目だけでなく、専門分野に沿った選択科目を幅広く履修し、専門職としての見識や能力をより高めるようにする。

ただし、介護福祉士受験資格履修以外の学生は、自立支援領域科目の内、介護福祉士受験資格取得のための科目の「介護」「医療的ケア」領域の科目は履修できない。

(3) 研究ゼミナールの履修要件

4年次には必修科目として、卒業論文に取り組むための「研究ゼミナール」を課している。「研究ゼミナール」の履修要件は、4年次に、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することにより卒業要件単位(共通教育科目と学部教育科目を総合した124単位)を満たすものとする。

(4) 資格取得

社会福祉学専攻では、社会福祉士の受験資格(表1)と社会福祉主任用資格(表3)が取得できる。これに加えて、介護福祉士の受験資格(表2)が取得できる。なお、介護福祉士の受験資格のみを単独で取得することもできる。ただし、介護福祉士受験資格の最大定員は30名であるため、希望者が定員を超えた場合には選択できない場合もある。介護福祉士受験資格の取得を希望する学生は、1年次第1Q終了前に決定し、1年次第2Qから自立支援領域の専門を履修する。

社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、社会福祉業務に携わる人の国家資格である。本学科において、厚生労働省の告示により指定されている所定の授業科目をすべて単位取得し、年1回実施される国家試験に合格すれば、社会福祉士として登録できる。「社会福祉士及び介護福祉士法」には「社会福祉士とは、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者」と規定されている。

介護福祉士の資格は、「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、介護業務に携わる人の国家資格である。本学科において、厚生労働省の告示により指定されている所定の授業科目をすべて単位取得し、年1回実施される国家試験に合格すれば、介護福祉士として登録できる。「社会福祉士及び介護福祉士法」では、「介護福祉士とは、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護(喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であって、医師の指示の下に行われるもの(厚生労働省令で定めるものに限る。)を含む。)を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」と規定されている。

社会福祉主事は、「社会福祉法」に規定された資格で、基本的には、都道府県、市町村の行政職や福祉職の公務員試験に合格し、福祉事務所などのケースワーカーに採用される場合に活きる資格である。また、一定の社会福祉施設の生活支援員の資格にも準用される。この資格を得るために、「社会福祉主事に関する指定科目」(表3 「社会福祉主事に関する指定科目」)のうち、いずれか3科目を取得する必要がある。

表1 社会福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

厚生労働省告示に定める科目	保健福祉学科開講科目			
科目	科目	受験資格科目	国家試験科目	時間数
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能 I	3科目のうち 1科目(※)	○	30
心理学理論と心理的支援	心理学入門		○	30
社会理論と社会システム	産業と社会		○	30
現代社会と福祉	社会福祉原論	○	○	30
	社会福祉政策論	○	○	30
社会調査の基礎	社会福祉調査論	○	○	30
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク論	○	○	30
	福祉専門職論	○	○	30
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク I	○	○	30
	ソーシャルワーク II	○	○	30
	ソーシャルワーク III	○	○	30
	社会福祉調査演習	○	○	30
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	○	30
	地域組織論	○	○	30
福祉行財政と福祉計画	社会福祉行財政論	○	○	30
	福祉計画論	○	○	30
福祉サービスの組織と経営	社会福祉施設経営論	○	○	30
社会保障	社会保障論 I	○	○	30
	社会保障論 II	○	○	30
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論 I	○	○	30
	高齢者福祉論 II	○	○	30
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論 I	○	○	30
	障害者福祉論 II	○	○	30
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論 I	○	○	30
	児童福祉論 II	○	○	30
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	○	○	30
保健医療サービス	保健医療制度	○	○	30
就労支援サービス	就労支援制度	3科目のうち 1科目(※)	○	30
権利擁護と成年後見制度	権利擁護・成年後見制度		○	30
更生保護制度	司法福祉論		○	15
相談援助演習	ソーシャルワーク演習 I	○	○	60
	ソーシャルワーク演習 II	○	○	60
	ソーシャルワーク演習 III	○	○	30
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導 I	○	○	45
	ソーシャルワーク実習指導 II	○	○	45
	ソーシャルワーク実習指導 III	○	○	45
相談援助実習	ソーシャルワーク実習	○	○	180

※受験資格科目としてはこのように定められているが、すべて国家試験科目であり履修すること。

表2 介護福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則 別表第4に定められる科目			保健福祉学科社会福祉学専攻介護福祉コースにおける 開設科目等			備 考
領域	教育内容	指定時間数	授業科目等の名称	配当単位数	配当時間数	
人間と社会	人間の尊厳と自立	30	社会福祉原論	2	30	左記授業科目を必ず履修し、修得すること。 左記授業科目の中の単位数に関わらず指定時間数240時間以上に相当する科目を選択し、修得すること。
	人間関係とコミュニケーション	30	ソーシャルワークⅠ	2	30	
	社会の理解	60	高齢者福祉論Ⅰ	2	30	
			地域福祉論	2	30	
	人間と社会に関する選択科目		産業と社会	2	30	
			権利擁護・成年後見制度	2	30	
			自然科学入門	2	30	
			社会保障論Ⅰ	2	30	
介護	介護の基本	180	介護原論	2	30	左記授業科目を必ず履修し、修得すること。
			介護福祉実験演習	1	30	
			多文化介護論	2	30	
			生活とエルゴノミクス	2	30	
			介護管理	1	15	
			介護福祉経営論	1	15	
	コミュニケーション技術	60	生活維持・活性論	2	30	
			コミュニケーション技術論Ⅰ	1	30	
	生活支援技術	300	コミュニケーション技術論Ⅱ	1	30	
			福祉用具の活用技術と理論	1	30	
			生活支援技術Ⅰ	1	30	
			生活支援技術Ⅱ	1	30	
			生活支援技術Ⅲ	1	30	
			生活支援技術Ⅳ	1	30	
			生活支援技術Ⅴ	2	60	
			生活支援技術Ⅵ	1	30	
			家政学演習	1	30	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	60	住環境科学演習	1	30	左記授業科目を必ず履修し、修得すること。
			介護過程総論	1	30	
			介護過程Ⅰ(基礎)	1	30	
			介護過程Ⅱ(応用)	1	30	
	介護過程	150	介護過程Ⅲ(実践)	2	60	
			介護総合演習(導入)	1	30	
			介護総合演習Ⅰ	1	30	
			介護総合演習Ⅱ	1	30	
	介護総合演習	120	介護総合演習Ⅲ	1	30	
			介護福祉実習Ⅰ	2	90	
			介護福祉実習Ⅱ	4	180	
医療的ケア	医療的ケア	450	介護福祉実習Ⅲ	4	180	医療的ケアのうち、医療的ケア演習Ⅱは選択とする。
			発達と老化の理解	2	30	
			老年医学	2	30	
			認知症の理解	2	30	
			認知症ケア論	2	30	
障害の理解	こころとからだのしくみ	60	障害の理解	2	30	
			障害科学Ⅰ	2	30	
			障害科学Ⅱ	2	30	
			人体の構造と機能Ⅰ	2	30	
			人体の構造と機能Ⅱ	2	30	
医療的ケア	医療的ケア	120	精神保健	2	30	
			心理学入門	2	30	
			医療的ケアⅠ	1	20	
			医療的ケアⅡ	1	20	
			医療的ケアⅢ	1	20	
		50	医療的ケア演習Ⅰ	1	30	
			医療的ケア演習Ⅱ(実地研修)	2	60	

(注) 1. 介護福祉士資格取得を希望する者は、介護福祉コースに在籍し、上記に定める科目のうち「医療的ケア演習Ⅱ」を除く全ての科目及び単位を修得することにより介護福祉士国家試験受験資格を得ることができる。

2. 介護福祉コース以外の学生は、この表の領域「介護」「医療的ケア」の授業科目を履修できない。

3. 上記に定める科目の出席時間数が指定規則に定める時間数の3分の2(ただし、介護実習については5分の4)に満たない者については、当該科目の単位を認定しない。

4. 介護福祉コースへの転学(編入学を含む。)及び移籍は認めない。

※法令等の改正により、変更が生じた場合には別途通知する。

表3 社会福祉主事に関する指定科目

指定科目	保健福祉学科開講科目	指定科目	保健福祉学科開講科目
社会福祉概論	社会福祉原論	法学	現代社会と法律(共通教育科目)
社会福祉事業史	社会福祉発達史	民法	なし
社会福祉援助技術論	ソーシャルワーク論	行政法	なし
社会福祉調査論	社会福祉調査論	経済学	現代社会と経済(共通教育科目)
社会福祉施設経営論	社会福祉施設経営論	社会政策	なし
社会福祉行政論	社会福祉行財政論	経済政策	なし
社会保障論	社会保障論Ⅰ、Ⅱ	心理学	心理学入門(共通教育科目)
公的扶助論	公的扶助論	社会学	産業と社会
児童福祉論	児童福祉論Ⅰ、Ⅱ	教育学	なし
家庭福祉論	なし	倫理学	倫理学の基礎(共通教育科目)
保育理論	保育原理Ⅰ、Ⅱ	公衆衛生学	公衆衛生
身体障害者福祉論	障害者福祉論Ⅰ、Ⅱ	医学一般	人体の構造と機能Ⅰ
知的障害者福祉論	知的発達と障害	リハビリテーション論	なし
精神障害者保健福祉論	精神障害者福祉論	看護学	看護の世界(他学科教育科目)
老人福祉論	高齢者福祉論Ⅰ、Ⅱ	介護概論	介護原論
医療社会事業論	保健医療制度	栄養学	栄養学総論(他学科教育科目)
地域福祉論	地域福祉論	家政学	なし

(5) 学外実習科目の履修要件

以下の実習科目を履修するためには、それぞれ以下の要件を満たす必要がある。また、事前に健康診断、麻疹抗体検査、腸内細菌検査等の受診が必要である。

①ソーシャルワーク実習

3年次にソーシャルワーク実習を履修する学生は、以下のすべての要件を満たすことを原則とする。

- ・2年次までに開講されている社会福祉士国家試験受験科目がすべて単位認定されていること。
- ・2年次開講の社会福祉士国家試験受験科目のうち演習および実習指導に関する科目において原則欠席がなく、授業の中で指示された所定の提出物(レポート等を含む)の提出がすべて行われていること。
- ・あらゆる領域・分野の対象者に関心を持って勉学に勤しみ、資格取得の意欲をもって実習に臨むことができる。
- ・伝染性疾患を有しない者、その他実習に支障のない者であること。

②介護福祉実習Ⅰ、介護福祉実習Ⅱ、介護福祉実習Ⅲ

各実習を履修する場合は、以下の要件を満たすことを原則とする。

- ・介護福祉実習Ⅰ、介護福祉実習Ⅱ、介護福祉実習Ⅲのそれぞれの実習までに開講されている介護福祉士国家試験受験科目のうち、介護領域の科目が履修及び認定されていることを原則とする。
- ・介護福祉士国家試験受験科目については、原則欠席がないこととする。
- ・学校保健法による出席停止に該当しないこと、その他実習に支障のない健康状態であることとする。

3. 6 子ども学専攻

(1) 教育課程

「福祉と教育が融合した子ども学」を学ぶために、子ども学専攻の教育課程は、1)専門共通科目と2)専門科目の2つから構成されている。保健・福祉の知識及び方法の基礎的修得と子どもの育ちと学びを支えるための専門知識と技術とを有機的に結びつける構成により、実践的な指導ができる力量の強化を目指しているところに特色がある。なお、子ども学専攻における専門科目は、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格を有する専門職として必要な専門基礎に関する科目を必修科目として、より専門性を高めるための科目を選択科目として設置している。

子ども学専攻 教育課程(カリキュラム)		概要
専門共通科目		保健福祉学の基礎理論や関連諸科学の専門的知識を修得する。 1年次から4年次までの小グループによる一貫教育を通して、研究方法を修得すると共に、卒業論文の執筆にむけた指導を行う。
専門科目	基礎領域科目	i) 理論系科目 教育・保育の基礎理論や、子どもの育ちと学びにかかわる環境について理解する。 ii) 実践系科目 教育・保育に必要とされる方法や技術を修得する。
	応用領域科目	教育・保育や家庭支援に必要となる知識、技術をさらに深く修得し総合的に活用する力量を形成する。 現場実践への応用を学ぶために教育実習・保育実習を行う。
	総合領域科目	子どもと家庭・地域社会の問題を理解し、支援するための保健福祉学的視点と力量を修得する。

(2) 履修上の留意点

共通教育科目(2-7頁参照)は、教育職・保育職に求められる豊かな知識・教養を涵養するものであるとともに、専門に進む基礎となるものである。このため、1、2年次で履修することが望ましい。

専門共通科目は、保健福祉学の理論と方法の基礎を修得するものである。また、1年次から4年次まで全学年で少人数制のゼミナール教育を実施しており、大学での学びへの導入から専門研究へと段階的に導いていく内容となっている。1年次の「入門ゼミナール」では、保健福祉学という視点から大学での学びの導入を行い、2年次の「基礎ゼミナール」では子ども学という視点から研究方法の基礎を学ぶ。3年次後期からは研究室に所属し、4年次の「研究ゼミナール」において卒業研究に取り組み卒業論文を作成する。但し、「研究ゼミナール」の履修には3年次までに所定の単位数を修得していることが必要である。

専門科目は、子どもの育ちと学びに関わる理論や知識、方法・技術を修得するとともに実践的指導力・支援力を培うものである。そのため、子ども学専攻専門科目の内容は、基礎領域科目(理論系科目及び実践系科目)、応用領域科目、総合領域科目の3つの領域科目から構成されている。学年に従って段階的に、基礎領域科目において修得した理論や知識、方法・技術を、応用領域科目で総合的に活用する力量を形成し、教育実習・保育実習における実践とその振り返りからさらに学びを深めていく。なお、専門科目の多くは卒業に必要不可欠な科目となっている。また、各年次に開講されている教育実習及び保育実習の履修に必要な科目については必ず履修し修得しなければならない。

(3) 研究ゼミナールの履修要件

「研究ゼミナール」は、卒業研究に取り組むための4年次の必修科目である。子ども学専攻の「研究ゼミナール」の履修要件は、4年次に研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することにより卒業要件単位(共通教育科目と学部教育科目を総合した124単位)を満たすものとする。

(4) 資格取得

1) 幼稚園教諭一種免許状

①資格の概要

幼稚園教諭は、学校教育法に定められた幼稚園において「幼児の保育をつかさどる」(学校教育法第27条)教員である。幼稚園教諭は家庭・地域社会と連携しながら生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な役割を担っている。

②免許状の種類 幼稚園教諭一種免許状

子ども学専攻では必要な単位数を修得することにより、卒業と同時に幼稚園教諭一種免許状を取得することができる。

③基礎資格と最低修得単位数

教育職員免許法では「基礎資格」を有し、「文部科学省令に定める科目(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)」、「教職に関する科目」、「教科に関する科目」及び「教科または教職に関する科目」について所定の単位数(最低修得単位)が定められている。それに基づいて本学での開設科目と単位数を定めている(表4参照)。

基礎資格	最低修得単位数	文部科学省令に定める科目(8単位)	教科に関する科目(6単位)	教職に関する科目(35単位)	教科または教職に関する科目(10単位)
幼一種免 学士の学位	本 学 子ども学 専 攻	8単位	10単位	38単位	10単位

()内は法定単位数

④単位修得及び履修の方法

(1)学士の学位を有すること

教育職員免許状を取得するには、基礎資格である学士の学位(卒業)を有することが前提となる。また、専攻に指定された卒業に必要な科目を修得しなければならない。さらに、その中には文部科学省令に定める、教育職員免許法施行規則第66条の6の科目(7科目8単位)を含むという制限があるので注意をして履修すること。

(2)教科に関する科目 10単位以上

「教科に関する科目」は免許状の教科別に定められた科目で、専門科目の一部からなっている。一部の科目を除き必修となる。

(3)教職に関する科目 38単位

「教職に関する科目」は免許状を取得するうえで、すべての科目が必修となる。なお、教職に関する科目のうち、「教育と社会」は共通教育科目である。

(4)教科又は教職に関する科目 10単位以上

「教科又は教職に関する科目」は、免許状を取得するうえで、一部の必修科目を除き、選択科目となる。

⑤教育実習について

教育実習は、教員免許状の取得を目指す学生たちにとっては欠かすことのできないものである。実際の教育現場において、大学で学んだ理論や知識を生かすとともに、教育の現場に触れながら教育の実践的な知識、技能等の基礎を修得するものである。実習についての詳細は教育実習の手引きに記載されている。

(1)教育実習の期間と単位数

種類	期間	科目名	単位	年次
幼稚園教育実習	4週間	教育実習	4	3
		教育実習指導	1	3

(2)教育実習履修資格

教育実習を履修するには、原則として以下の履修要件を満たすことが必要である。

- ア) i 教科に関する科目を3科目4単位以上修得していること。
 - ii 教職に関する科目を15科目以上20単位以上修得していること。
 - iii 文部科学省令に定める科目(教育職員免許法施行規則第66条の6)を全て修得していること。
- イ) 教育実習の事前指導を受けていること。
- ウ) 伝染性疾患有しない者、その他実習に支障のないものであること。

⑥教職実践演習について

教職実践演習(「保育・教職実践演習」)は教職課程の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として形成されたかについて確認する科目である。したがって、4年次第3Qに開講され、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づけられている。本学における「保育・教職実践演習」を履修するためには以下の条件を満たしていることが必要である。

- ア) 各年次の専攻オリエンテーションに必ず参加していること。
- イ) 1年次から履修している教職課程科目について、履修カルテⅠ及びⅡを作成していること。
- ウ) 履修履歴に関して担当教員との面談を行っていること。
- エ) 原則として、教育実習を終えていること。

2) 保育士資格

①資格の概要

保育士は、児童福祉法に「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」(児童福祉法第18条の4)と定められている。保育士は保育所をはじめとした児童福祉施設に必置の専門職であり、子ども及び子育て支援の中核を担う専門職として重要な役割を担っている。

②資格の種類 保育士(国家資格)

子ども学専攻では必要な単位数を修得することにより、卒業と同時に保育士資格を取得することができる。

③単位修得及び履修の方法

厚生労働省告示により保育士を養成する学校の修業教科目と単位数が定められている。それに基づいて本学での開講科目と単位数を定めている(表5参照)。

(1)教養科目 10単位以上

教養科目においては卒業必修科目以外に、「スポーツの科学」及び「スポーツⅠ」は必ず履修し修得すること。

(2)必修科目 54単位

すべての科目が必修となる。

(3)選択必修科目 9単位以上

選択必修科目においては、保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱ、または保育実習Ⅲ及び保育実習指導Ⅲのいずれかを必ず履修し修得すること。

④保育実習について

保育実習は、保育士養成校において修得した知識や技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことを目的としている。実習についての詳細は保育実習(保育所・施設)の手引きに記載されている。

(1)保育実習の期間と単位数

種類		期間	科目名	単位	年次
必修	児童福祉施設 (保育所以外)での実習	10日間 (宿泊)	保育実習ⅠA	2	2
	保育実習指導ⅠA		1	2	
	保育所での実習	10日間	保育実習ⅠB	2	3
			保育実習指導ⅠB	1	3
選択必修	保育所での実習	10日間	保育実習Ⅱ	2	4
			保育実習指導Ⅱ	1	4
	児童福祉施設 (保育所以外)での実習	10日間	保育実習Ⅲ	2	4
			保育実習指導Ⅲ	1	4

(2)保育実習履修資格

保育実習(「保育実習ⅠA」、「保育実習ⅠB」、「保育実習Ⅱ」または「保育実習Ⅲ」)を履修するには、以下の履修要件を満たすことが必要である。

ア)各実習に該当する保育実習指導を合わせて履修すること。

イ)原則として、保育士資格に必要な授業科目(表5)の内、各実習までに開講されている必修科目を修得していること。

ウ)健康診断、麻疹抗体検査、腸内細菌検査等を事前に受診していること。

⑤保育士登録について

「保育士」として業務を行う場合、都道府県知事に対し、業務に就く前に保育士登録手続きを行う必要がある(児童福祉法第18条の6、第18条の18)。保育士登録手続は4年次後期に大学を通して行う。

3) 社会福祉主事

資格の概要及び指定科目については、表3を参照のこと。

表4 幼稚園教諭一種免許状を取得するために必要な授業科目

教育職員免許法施行規則に定める科目		子ども学専攻開講科目	授業の方法	配当時間数	配当単位数	必修選択の別	
教科に関する科目	国語	国語	講義	30	2	必修	
	生活	生活	講義	30	2	必修	
	音楽	音楽 I (声楽)	演習	30	1	必修	
		音楽 I (ピアノ①)	演習	30	1	必修	
		音楽 II (ピアノ②)	演習	30	1	選択	
		音楽 II (ピアノ③)	演習	30	1	選択	
	図画工作	図画工作 I	演習	30	1	必修	
		図画工作 II	演習	30	1	必修	
	体育	体育 I (表現運動)	演習	30	1	必修	
		体育 II (運動遊び)	演習	30	1	必修	
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目		教師論	講義	30	2	必修
	教育の基礎理論に関する科目		教育基礎論	講義	30	2	必修
			教育心理学	講義	30	2	必修
			子どもの心理学	演習	30	1	必修
			障害児の発達と教育	演習	30	1	必修
	教育課程及び指導法に関する科目		教育と社会	講義	30	2	必修
			カリキュラム論	講義	30	2	必修
			保育内容総論	演習	30	1	必修
			保育内容 I (健康)	演習	30	1	必修
			保育内容 I (人間関係)	演習	30	1	必修
			保育内容 I (環境)	演習	30	1	必修
			保育内容 I (言葉)	演習	30	1	必修
			保育内容 I (造形表現)	演習	30	1	必修
			保育内容 I (音楽表現A)	演習	30	1	必修
			保育内容 I (音楽表現B)	演習	30	1	必修
			保育内容 I (身体表現)	演習	30	1	必修
			保育内容 II (音楽表現)	演習	30	1	必修
			保育内容 II (総合表現)	演習	45	2	必修
			保育内容指導法	演習	30	1	必修
教科または教職に	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目		障害児指導法	演習	30	1	必修
	教育実習		幼児教育方法論	講義	30	2	必修
			幼児理解の理論と方法	講義	30	2	必修
	教職実践演習		保育・教育相談	演習	30	1	必修
			教育実習	実習	180	4	必修
	規則教育定第職め6員る6免科条許目の法6施行に行		教育実習指導	演習	30	1	必修
			保育・教職実践演習	演習	60	2	必修
	履修方法		身体機能と障害	講義	30	2	選択
			知的発達と障害	講義	30	2	選択
			子どもの保健 I A	講義	30	2	選択
			子どもの食と栄養 I	演習	30	1	選択
			子ども臨床基礎論	講義	30	2	必修
			子ども家庭支援論	講義	30	2	選択
			子どもの発達と支援	演習	30	1	選択
			子どもの発達と表現	演習	30	1	選択

幼稚園教諭一種免許状取得のために必要な修得単位数は下記の66単位とする。

①教科に関する科目 計10単位

②教職に関する科目 計38単位

なお、教職に関する科目のうち、「教育と社会」は共通教育科目である。

③教科または教職に関する科目から計10単位

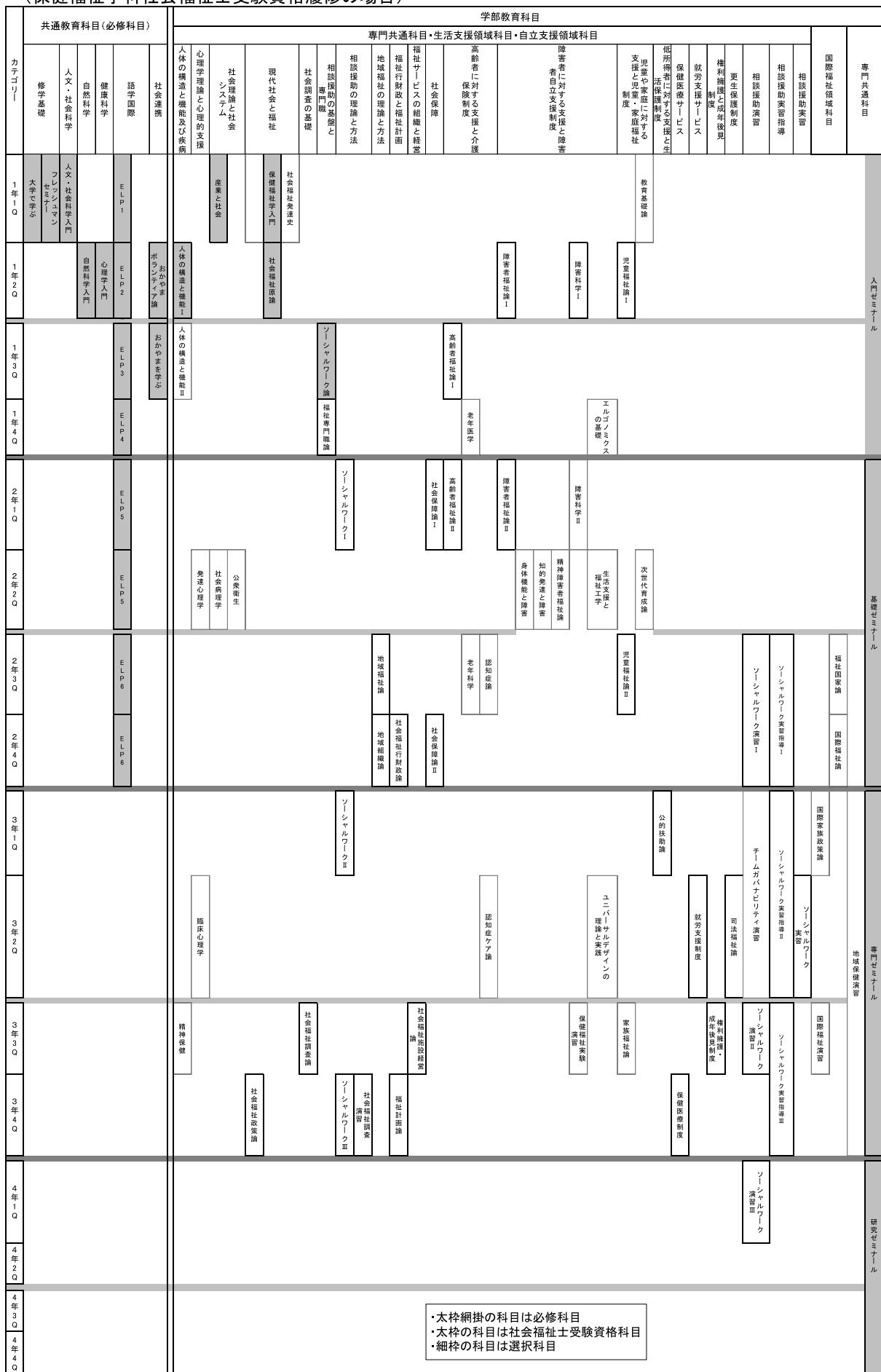
④教育職員免許法施行規則第66条の6の科目について、共通教育科目から計8単位

表5 保育士の資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

保育士を養成する学校の修業教科目 (平成22年厚生労働省告示第278号)				保健福祉学科子ども学専攻 における開設科目等			備 考		
区分	教育内容		単位数	授業科目等の名称		配当単位数			
教養科目	外国語		演習	2以上	English Language Program 1	1	外国語に関する授業科目から2単位以上選択し、修得すること。 「スポーツの科学」及び「スポーツI」は、必ず修得すること。 左記の授業科目から6単位以上選択し、修得すること。		
					English Language Program 2	1			
					English Language Program 4	1			
	体育		講義	1	スポーツの科学	1			
					スポーツI	1			
	外国语・体育以外の科目		6以上		心理学入門	2			
					日本国憲法	2			
					現代社会と法律	2			
					産業と社会	2			
					子どもと家族	2			
					コンピュータ演習I	1			
					コンピュータ演習II	1			
必修科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理I	2	左記の授業科目を必ず履修し、修得すること。		
					教育基礎論	2			
		児童家庭福祉	講義	2	児童福祉論I	2			
					社会福祉原論	2			
		相談援助	演習	1	相談援助演習	1			
					社会的養護	2			
		保育者論	講義	2	教師論	2			
					保育の心理学I	2			
	保育の対象の理解に関する科目		講義	2	教育心理学	2			
					子どもの心理学	1			
	子どもの保健I	講義	4	子どもの保健IA	2				
				子どもの保健IB	2				
	子どもの保健II	演習	1	子どもの保健II	1				
				子どもの食と栄養I	1				
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養II	1				
				家庭支援論	2				
	保育の内容・方法に関する科目	保育課程論	講義	2	カリキュラム論	2			
					保育内容総論	1			
		保育内容演習	演習	5	保育内容I(健康)	1			
					保育内容I(人間関係)	1			
					保育内容I(環境)	1			
					保育内容I(言葉)	1			
					保育内容I(造形表現)	1			
					保育内容I(音楽表現B)	1			
					保育内容I(身体表現)	1			
	乳児保育	演習	2		乳児保育I	1	2		
					乳児保育II	1			
		演習	2		障害児の発達と教育	1			
					障害児指導法	1			
	社会的養護内容	演習	1		社会的養護内容	1			
					保育・教育相談	1			
	保育の表現技術	保育の表現技術	演習	4	体育I(表現運動)	1			
					図画工作I	1			
					音楽I(ピアノ①)	1			
					音楽I(声楽)	1			
	保育実習	保育実習I	実習	4	保育実習IA	2			
					保育実習IB	2			
		保育実習指導I	演習	2	保育実習指導IA	1			
					保育実習指導IB	1			
	総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	2			
選択必修科目	保育の本質・目的に関する科目		15以上		児童福祉論II	2	左記の授業科目から6単位以上履修し、修得すること。		
					社会福祉施設経営論	2			
					保育原理II	2			
	保育の対象の理解に関する科目				臨床心理学	2			
					保育内容II(総合表現)	2			
					体育II(運動遊び)	1			
	保育の内容・方法に関する科目				図画工作II	1			
					音楽II(ピアノ②)	1			
					音楽II(ピアノ③)	1			
	保育の表現技術				保育内容I(音楽表現A)	1			
					保育内容II(音楽表現)	1			
					保育内容指導法	1			
					保育実習II	2			
	保育実習	保育実習II	実習	2	保育実習III	1	保育実習II及び保育実習指導II、または、保育実習III及び保育実習指導IIIのいずれか3単位以上を履修し、修得すること。		
					保育実習IV	1			
		保育実習III	演習	1	保育実習V	1			
					保育実習VI	1			

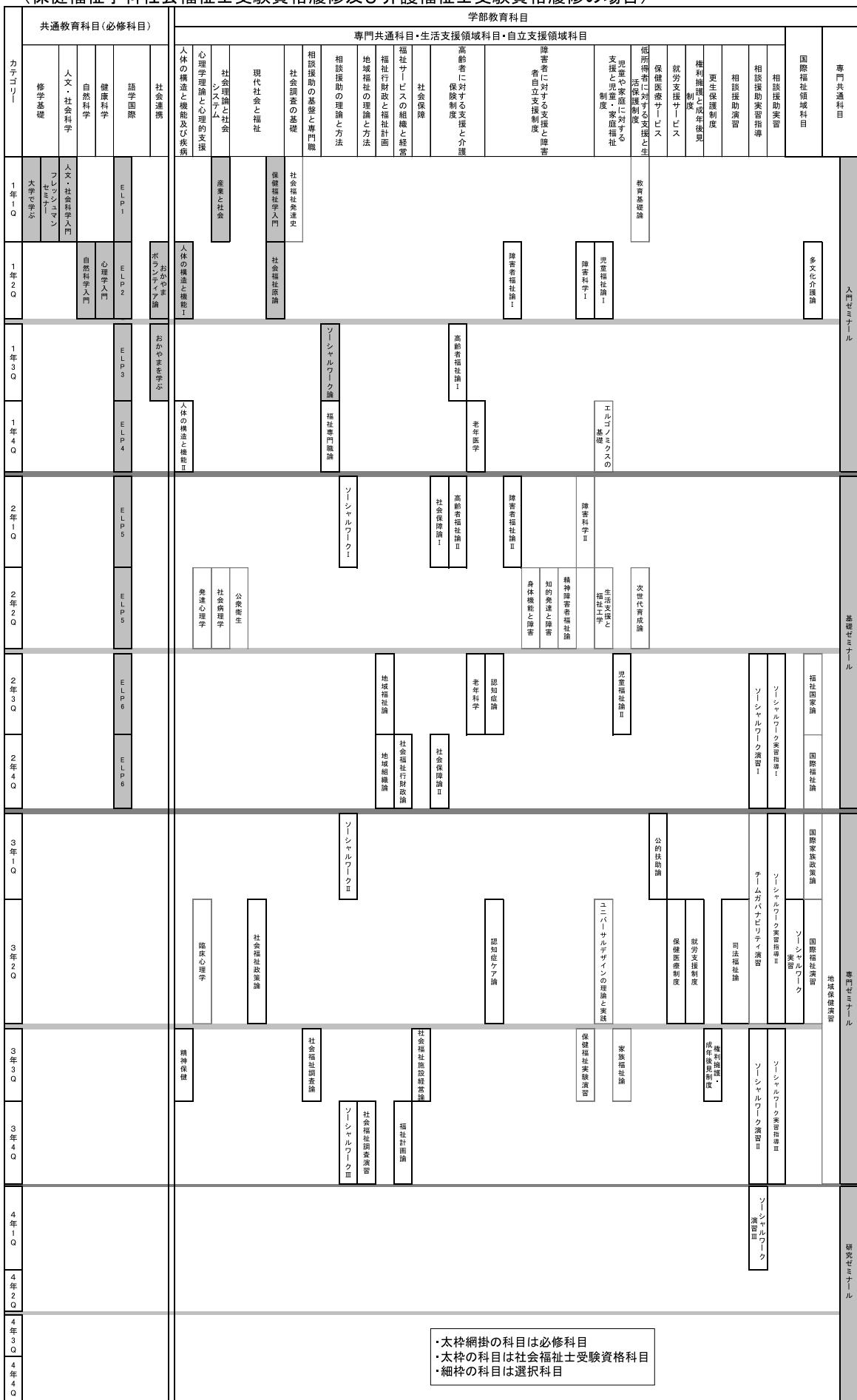
(注) 1. 他大学における授業科目の履修等については、学則第36条第3項、第37条第2項及び第38条第2項中の「60単位」は、「30単位」と読み替えてこの表を適用する。 2. 子ども学専攻以外の学生は、原則として子ども学専攻の専門科目の演習・実習の授業科目を履修できない。

図1 社会福祉学専攻 教育課程の編成と授業科目の関係
(保健福祉学科社会福祉士受験資格履修の場合)



(白紙)

図2 社会福祉学専攻 教育課程の編成と授業科目の関係
 (保健福祉学科社会福祉士受験資格履修及び介護福祉士受験資格履修の場合)



学部教育科目		
自立支援領域科目		
カテゴリー	介護の基本	
	人間と社会	介護の基本
1年1Q		
1年2Q	介護実習	
1年3Q		介護実習実習
1年4Q		介護実習実習
2年1Q		介護実習実習（導入）
2年2Q		介護福祉実習Ⅰ
2年3Q		介護福祉実習Ⅱ
2年4Q		介護福祉実習Ⅲ
3年1Q		介護福祉実習Ⅳ
3年2Q		介護福祉実習Ⅴ
3年3Q		介護福祉実習Ⅵ
3年4Q		介護福祉実習Ⅶ
4年1Q		介護福祉実習Ⅷ
4年2Q		介護福祉実習Ⅸ
4年3Q		介護福祉実習Ⅹ
4年4Q		介護福祉実習Ⅺ

図3 子ども学専攻 教育課程の編成と授業科目の関係
(幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格履修の場合)

カテゴリー	共通教育科目(必修科目)										学部教育科目											
	人文・社会科学					自然科学					基礎領域					応用領域					総合領域	
	修学基礎		人文・社会科学		自然科学	健康科学		語学国際		社会連携	理論		実践		実習		実験		専門			
1年 第1Q	大学で学ぶ	フーリン・シマノン	人文・社会科学入門	子どもと家族	心理学入門	ELP-1	スポーツI	ELP-2	おかげまボランティア講座	おからやまを学ぶ	教育基礎論	教育心理学	音楽I(声楽)	音楽I(ピアノ①)	音楽II(ピアノ②)	音楽III(ピアノ③)	音楽IV(体育Ⅱ)	音楽V(体育Ⅲ)	音楽VI(音楽表現)	音楽VII(音楽表現)	保健福祉入門	
1年 第2Q			日本国憲法	現代社会と法律	コンピュータ演習I	ELP-3	スポーツII	ELP-4	ELP-5	ELP-6	社会的養護	社会的養護	音楽I(声楽)	音楽I(ピアノ①)	音楽II(ピアノ②)	音楽III(ピアノ③)	音楽IV(体育Ⅱ)	音楽V(体育Ⅲ)	音楽VI(音楽表現)	音楽VII(音楽表現)	社会保育論	
1年 第3Q					コンピュータ演習II															次世代育成論	次世代育成論	
1年 第4Q					スポーツの科学															ワーキング論	ワーキング論	
2年 第1Q			教育と社会		コンピュータ演習I															地域福祉論	地域福祉論	
2年 第2Q					コンピュータ演習II															基礎セミナー	基礎セミナー	
2年 第3Q																				専門ゼミナー	専門ゼミナー	
2年 第4Q																				研究セミナー	研究セミナー	
2年集中																						
3年 第1Q																						
3年 第2Q																						
3年 第3Q																						
3年 第4Q																						
3年集中																						
4年 第1Q																						
4年 第2Q																						
4年 第3Q																						
4年 第4Q																						
4年集中																						
	太枠の科目は卒業必修科目(幼児または保育士必修科目を含む) 一重枠の科目は保育士必修科目 点線枠の科目は卒業選択科目(幼児または保育士選択科目を含む)																					

3. 7 社会福祉学専攻 授業科目

授業科目の名称	授業の方法	担当教員	開講年次及び必修選択の別				開講時間数	開講単位数	卒業要件単位数
			1	2	3	4			
専門共通科目	保健福祉学入門	講義	中村(光)他	◎			30	2	96
	社会福祉原論	講義	井村	◎			30	2	
	地域福祉論	講義	井村		○		30	2	
	社会保障論Ⅰ	講義	未定		○		30	2	
	高齢者福祉論Ⅰ	講義	※未定	○			30	2	
	障害者福祉論Ⅰ	講義	坂野	○			30	2	
	児童福祉論Ⅰ	講義	周防	○			30	2	
	児童福祉論Ⅱ	講義	周防		○		30	2	
	社会福祉施設経営論	講義	井上			○	30	2	
	ソーシャルワーク論	講義	村社	◎			30	2	
	人体の構造と機能Ⅰ	講義	藤井	◎			30	2	
	身体機能と障害	講義	中村(光)・中村(孝)		○		30	2	
	知的発達と障害	講義	中村(光)		○		30	2	
	教育基礎論	講義	佐藤(和)	○			30	2	
	臨床心理学	講義	樂木			○	30	2	
	次世代育成論	講義	近藤・桐野		○		30	2	
	地域保健福祉演習	演習	二宮・久保田・坂野			○	30	1	
	入門ゼミナール〔隔週〕	演習		◎			30	1	
専門科目	基礎ゼミナール〔隔週〕	演習		◎			30	1	
	専門ゼミナール〔隔週〕	演習			◎		30	1	
	研究ゼミナール	演習				◎	120	4	
生活支援領域科目	産業と社会	講義	近藤	◎			30	2	単位
	発達心理学	講義	樂木		○		30	2	
	公衆衛生	講義	藤井		○		30	2	
	社会病理学	講義	近藤		○		30	2	
	社会福祉発達史	講義	井村	○			30	2	
	社会保障論Ⅱ	講義	未定		○		30	2	
	高齢者福祉論Ⅱ	講義	未定		○		30	2	
	障害者福祉論Ⅱ	講義	坂野		○		30	2	
	社会福祉政策論	講義	井村			○	30	2	
	社会福祉調査論	講義	近藤 他			○	30	2	
	福祉専門職論	講義	竹本	○			30	2	
	ソーシャルワークⅠ	講義	竹本		○		30	2	
	ソーシャルワークⅡ	講義	村社			○	30	2	
	ソーシャルワークⅢ	講義	未定			○	30	2	
	社会福祉調査演習	演習	近藤 他			○	30	1	
	地域組織論	講義	井村		○		30	2	
	社会福祉行政財政論	講義	井村		○		30	2	
	福祉計画論	講義	井村			○	30	2	
	精神障害者福祉論	講義	坂野		○		30	2	
	エルゴノミクスの基礎	講義	中村(孝)	○			30	2	
	ユニバーサルデザインの理論と実践	講義	中村(孝)			○	30	2	
	生活支援と福祉工学	講義	中村(孝)		○		30	2	
	保健福祉実験演習	演習	中村(孝) 他			○	30	1	
	家族福祉論	講義	周防			○	30	2	
	公的扶助論	講義	未定			○	30	2	
	保健医療制度	講義	坂野			○	30	2	
	就労支援制度	講義	村社			○	30	2	
	権利擁護・成年後見制度	講義	桐野			○	30	2	
	司法福祉論	講義	※藤原			○	15	1	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	竹本 他		○		60	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	村社 他			○	60	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	村社 他			○	30	1	
	チームガバナビリティ演習	演習	中村(光) 他			○	30	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	竹本 他		○		45	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	竹本 他			○	45	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	竹本 他			○	45	1	
	ソーシャルワーク実習	実習	竹本 他			○	180	4	

授業科目的名称		授業の方法	担当教員	開講年次及び必修選択の別				開講時間数	開講単位数	卒業要件単位数
				1	2	3	4			
専門科目	老年科学	講義	中村(光)・澤田		○			30	2	96 単位
	老年医学	講義	藤井	○				30	2	
	認知症論	講義	中村(光)		○			30	2	
	認知症ケア論	講義	佐藤(ゆ)			○		30	2	
	障害科学 I	講義	中村(光)	○				30	2	
	障害科学 II	講義	中村(孝)		○			30	2	
	人体の構造と機能 II	講義	藤井	○				30	2	
	精神保健	講義	坂野			○		30	2	
	介護原論	講義	谷口	○				30	2	
	介護福祉実験演習	演習	中村(孝)他			○		30	1	
	生活とエルゴノミクス	講義	中村(孝)		○			30	2	
	介護管理	講義	谷口・藤井				○	15	1	
	介護福祉経営論	講義	※高橋(和)				○	15	1	
	生活維持・活性論	講義	犬飼		○			30	2	
	コミュニケーション技術論 I	演習	谷口 他		○			30	1	
	コミュニケーション技術論 II	演習	谷口 他			○		30	1	
	生活支援技術 I	演習	趙 他	○				30	1	
	生活支援技術 II	演習	趙 他	○				30	1	
	生活支援技術 III	演習	原野 他	○				30	1	
	生活支援技術 IV	演習	松田 他	○				30	1	
	生活支援技術 V	演習	趙 他	○				60	2	
	生活支援技術 VI	演習	原野 他	○				30	1	
	福祉用具の活用技術と理論	演習	佐藤(ゆ)	○				30	1	
	家政学演習	演習	山下・※治部		○			30	1	
	住環境科学演習	演習	中村(孝)・※山本(百)			○		30	1	
	介護過程総論	演習	谷口 他	○				30	1	
	介護過程 I (基礎)	演習	原野 他		○			30	1	
	介護過程 II (応用)	演習	原野 他		○			30	1	
	介護過程 III (実践)	演習	原野 他			○		60	2	
	介護総合演習(導入)	演習	趙 他		○			30	1	
	介護総合演習 I	演習	趙 他		○			30	1	
	介護総合演習 II	演習	原野 他			○		30	1	
	介護総合演習 III	演習	佐藤(ゆ) 他				○	30	1	
	介護福祉実習 I	実習	趙 他		○			90	2	
	介護福祉実習 II	実習	原野 他		○			180	4	
	介護福祉実習 III	実習	佐藤(ゆ) 他			○		180	4	
	医療的ケア I	講義	原野 他	○				20	1	
	医療的ケア II	講義	藤井 他	○				20	1	
	医療的ケア III	講義	原野・藤井 他			○		20	1	
	医療的ケア演習 I	演習	原野・谷口 他			○		30	1	
	医療的ケア演習 II (実地研修)	演習	原野・谷口 他			○		60	2	
領域際科目	福祉国家論	講義	未定		○			30	2	
	国際福祉論	講義	近藤		○			30	2	
	国際家族政策論	講義	近藤			○		30	2	
	国際福祉演習	演習	近藤			○		30	1	
	多文化介護論	講義	趙	○				30	2	

「○」は必修科目、「○」は選択科目、「※」は非常勤講師資格取得に関しては別表を参照のこと。

学部教育科目の卒業要件単位数 96単位

卒業要件単位数 124単位(共通教育科目の卒業要件28単位を含む)

3. 8 子ども学専攻 授業科目

授業科目の名称	授業の方法	担当教員	開講年次及び必修選択の別				開講時間数	開講単位数	卒業要件単位数
			1	2	3	4			
専門共通科目	保健福祉学入門	講義	中村(光) 他	◎			30	2	
	社会福祉原論	講義	井村	◎			30	2	
	地域福祉論	講義	井村		○		30	2	
	社会保障論 I	講義	未定		○		30	2	
	高齢者福祉論 I	講義	※未定	○			30	2	
	障害者福祉論 I	講義	坂野	○			30	2	
	児童福祉論 I	講義	周防	○			30	2	
	児童福祉論 II	講義	周防		○		30	2	
	社会福祉施設経営論	講義	井上			○	30	2	
	ソーシャルワーク論	講義	村社	○			30	2	
	人体の構造と機能 I	講義	藤井	◎			30	2	
	身体機能と障害	講義	中村(光)・中村(孝)		○		30	2	
	知的発達と障害	講義	中村(光)		○		30	2	
	教育基礎論	講義	佐藤(和)	◎			30	2	
	臨床心理学	講義	樂木			○	30	2	
	次世代育成論	講義	近藤・桐野		○		30	2	
	地域保健福祉演習	演習	二宮・久保田・坂野			○	30	1	
	入門ゼミナール〔隔週〕	演習		◎			30	1	
専門科目	基礎ゼミナール〔隔週〕	演習			◎		30	1	
	専門ゼミナール〔隔週〕	演習				◎	30	1	
	研究ゼミナール	演習				◎	120	4	
専門科目	国語	講義	樟本		◎		30	2	
	生活	講義	※高橋(多)			◎	30	2	
	音楽 I (声楽)	演習	吉永	◎			30	1	
	音楽 I (ピアノ①)	演習	吉永 他	◎			30	1	
	音楽 II (ピアノ②)	演習	吉永 他		○		30	1	
	音楽 II (ピアノ③)	演習	吉永 他			○	30	1	
	図画工作 I	演習	関崎			○	30	1	
	図画工作 II	演習	関崎			○	30	1	
	体育 I (表現運動)	演習	新山			○	30	1	
	体育 II (運動遊び)	演習	新山			○	30	1	
	教師論	講義	佐藤(和)		◎		30	2	
	教育心理学	講義	樟本	◎			30	2	
	子どもの心理学	演習	樂木・樟本		◎		30	1	
	障害児の発達と教育	演習	京林		◎		30	1	
	カリキュラム論	講義	佐藤(和)			◎	30	2	
	保育内容総論	演習	佐藤(和)・柏	◎			30	1	
	保育内容 I (健康)	演習	※渡部・新山		◎		30	1	
	保育内容 I (人間関係)	演習	京林	◎			30	1	
	保育内容 I (環境)	演習	※高橋(多)		◎		30	1	
	保育内容 I (言葉)	演習	樟本		◎		30	1	
	保育内容 I (造形表現)	演習	関崎		◎		30	1	
	保育内容 I (音楽表現A)	演習	※安達		◎		30	1	
	保育内容 I (音楽表現B)	演習	吉永			◎	30	1	
	保育内容 I (身体表現)	演習	新山		◎		30	1	
	保育内容 II (音楽表現)	演習	吉永			◎	30	1	
	保育内容 II (総合表現)	演習	新山・吉永・樟本			◎	45	2	
	保育内容指導法	演習	※入江			◎	30	1	
	障害児指導法	演習	京林			◎	30	1	
	幼児教育方法論	講義	柏			◎	30	2	
	幼児理解の理論と方法	講義	樟本・池田・京林		◎		30	2	
	保育・教育相談	演習	中野			◎	30	1	
	子ども臨床基礎論	講義	中野・樟本	◎			30	2	
	子どもの発達と表現	演習	吉永・坂野・新山		○		30	1	
	子どもの発達と支援	演習	京林			○	30	1	

96 単位

授業科目の名称	授業の方法	担当教員	開講年次及び必修選択の別				開講時間数	開講単位数	卒業要件単位数
			1	2	3	4			
専門科目	子どもの保健ⅠA	講義	藤井	◎			30	2	96単位
	子どもの保健ⅠB	講義	坂野・藤井	◎			30	2	
	子どもの保健Ⅱ	演習	沖本他		○		30	1	
	子どもの食と栄養Ⅰ	演習	山本(登)		○		30	1	
	子どもの食と栄養Ⅱ	演習	新田		○		30	1	
	子ども家庭支援論	講義	中野		○		30	2	
	相談援助演習	演習	中野		○		30	1	
	保育原理Ⅰ	講義	池田	◎			30	2	
	保育原理Ⅱ	講義	池田		○		30	2	
	乳児保育Ⅰ	演習	柏		○		30	1	
	乳児保育Ⅱ	演習	柏		○		30	1	
	社会的養護原理	講義	中野	◎			30	2	
	社会的養護内容	演習	中野・周防	◎			30	1	
	保育・教職実践演習	演習	佐藤(和)他			◎	60	2	
	教育実習	実習	佐藤(和)・樟本他		◎		180	4	
	教育実習指導	演習	佐藤(和)・樟本		◎		30	1	
	保育実習ⅠA	実習	中野他	◎			90	2	
	保育実習指導ⅠA	演習	中野・京林	◎			30	1	
	保育実習ⅠB	実習	池田他		◎		90	2	
	保育実習指導ⅠB	演習	池田・柏		◎		30	1	
	保育実習Ⅱ	実習	池田他			○	90	2	
	保育実習指導Ⅱ	演習	池田・柏			○	30	1	
	保育実習Ⅲ	実習	中野他			○	90	2	
	保育実習指導Ⅲ	演習	中野・京林			○	30	1	

「◎」は必修科目、「○」は選択科目、「※」は非常勤講師

資格取得に関しては「資格取得に必要な授業科目及び単位数」を参照のこと。

学部教育科目的卒業要件単位数 96単位

卒業要件単位数 124単位(共通教育科目の卒業要件28単位を含む)